おんがく広場
♪Music Square♬
第199号
令和4年(2022)11月9日(水)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊　連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

歌うことの意味を問い続けた３年間

岡山市民合唱団鷲羽（わしゅう）

今福茂樹

去る10月30日(日)、私たち岡山市民合唱団鷲羽は第49回定期演奏会を岡山シンフォニーホールで開催しました。3年越しの演奏会でした。

歌うことは悪か

2020年の2月新型コロナウィルス感染症が全世界を襲い、まるで「歌うことは悪」といった風潮の中で、合唱団やカラオケボックスなどがネットでバッシングされ、音楽の授業からは歌唱はもとより、リコーダーや鍵盤ハーモニカも姿を消してしまいました。コロナは、同じ時間と空間を共にすることで成り立つ音楽という芸術に対しての死刑宣告のようにも感じられました。

「合唱をすることが許されることなのだろうか」と、団員間で何度も話し合い、時には意見がきびしく対立して、人間関係も損なわれるような状態に追い込まれました。コロナの恐ろしさは、人と人との分断を招くところにあるような気がします。

団員の中にも医療関係や福祉関係の職業についている者、介護の必要な老親のいる者など各自の事情は様々ですが、とにかく参加できる者だけでも続けていこうと練習を再開しました。しかし、その度に「第〇波」が襲いかかり練習中止、演奏会延期を繰り返してきた3年間でした。

苦悩を経て歓喜に至れ！

定演当日を迎えるまで，本当に気の休まることのない日々でしたが、それだけに最終ステージ「山田耕筰による五つの歌」の演奏を終えた団員の表情(マスクで半分隠れてますが)は充実感にあふれていました。

この困難な日々は、一人一人が「歌うことの意味」を問い続ける日々でもありました。ピンチはチャンスでもあります。音楽に対する情熱はさらに高まったのではないかと思っています。

苦悩を経て歓喜にいたれ！

今福茂樹　プロフィール

昭和36年(1961) 2月1日、岡山生まれ。
岡山大学在学中に岡山大学男声合唱団コール・ロータスに在籍し、合唱活動を始めて現在に至る。パートはベース。
現在、岡山県合唱連盟常任理事、岡山市民合唱団鷲羽チーフ・マネージャー、岡山大学男声合唱団コール・ロータスOB会事務局長。

〔編集部より〕

岡山市民合唱団 鷲羽は、1971年7月、指揮者に近藤安个（やすかず）氏を迎え、団員45名で発足しました。1973年、75年には全日本合唱コンクール全国大会で銀賞を受賞。1991年にはニューヨーク市カーネギーホール、サンノゼ市ヨセフ大聖堂でモーツァルト「レクイエム」を演奏。2001年には池辺晋一郎作曲合唱オペラシアター「ごんぎつね」(委嘱初演)公演。2013年にはトルコ親善公演を行うなど、岡山を代表する合唱団として活動しています。現在の団員数は53名。

同合唱団が定例の練習会場としている蓮昌寺（れんじょうじ）のホールは、平成26年(2014)岡山で行われた第３回全日本男声合唱フェスティバルに筆者(加藤良一)が団長を務める男声合唱団ヴィヴ・ラ・コンパニーが出演した際、練習会場としてお借りした場所であり、懐かしく思い出します。

この時は、岡山から7団体が参加しており、岡山大学男声合唱団コール・ロータスおよびそのOB会も出演していました。